



「六方むき」のむき方

1. 洗った里芋の水分を、キッチンペーパーでしっかりとふきとる（写真①）
2. 上下を平らに切り落とす（写真②）
3. 上から下に向かって、側面の皮をむきながら切る。この時、側面がきれいな六面になるように、むいた面と対面の皮をむいていく（写真③）

1. 洗った里芋の水分を、キッチンペーパーでしっかりとふきとる（写真①）  
2. 上下を平らに切り落とす（写真②）  
3. 上から下に向かって、側面の皮をむきながら切る。この時、側面がきれいな六面になるように、むいた面と対面の皮をむいていく（写真③）

うを調理する時に「一番気を付けたいのが「あく」です。あくの正体であるシウ酸は、力強しウムの吸収を妨げ

れます。ゆすぎると色も食味も悪くなったり、またをせず、圧力をかけないようにゆかれて、芋がややしなやか

合いを楽しみましょう。冷凍する場合にも炒めて付け合わせにして、麺類の上に添えて、葉野菜の甘味や色

熱時間も普段より少し短く（90度で60秒程度）、かためにゆでるのがポイントです。

里芋はあくとえぐみがあるため、ゆでたり煮たりの「温式加熱」で調理します。里芋は滋味深い味わいです。みそなどをつける、シンプルな食べ方もおすすめです。

生のまま皮をむいています。先に加熱をする

## 冬を彩るほうれんそう、縁起の良い里芋

担当・桐生大学医療保健学部栄養学科助教 関谷 果林

ほうれんそうは、黄色野菜の代表として和・洋・中国の料理に幅広く用いられ、メイン料理の付け合わせとしてまた、おひたしやあえ物といった一品料理としても食卓に彩りを添えます。ほうれんそ

にし、沸騰してから入冷水で冷やしたら、

## 食と栄養の情報定期便

No.030

桐生大学栄養学科 短期大学部栄養学科

るだけではなにならすぐに取り出で冷水で冷やします。ゆでるときに、湯ぐみにもに1・5%程度の食塩を加えると、ほうれんの緑色素（クロロフィル）の退色を防ぎ、鮮やかな緑色を保つことができます。食塩が気になる方は、入には、まずゆでてあくを除いてから調理します。最後にしつかりて、また、おひたしやあえ物といった一品料理としても食卓に彩りを添えます。ほうれんそにし、沸騰してから入冷水で冷やしたら、

【プロフィル】関谷果林さんは宮崎県出身。南九州大学、南九州大学大学院卒業。2014年桐生大学に助手として着任、20年から現職。管理栄養士、新調理システム専任講師資格。好きな食べ物は、季節のフルーツ。

## 保健・福祉

### あくとえぐみを取り除いて

いる手がヒリヒリとかゆくなるのが厄介ですが、これは里芋のぬめりの中に含まれるシ

ユウ酸カルシウムの小さな結晶が、手のひらに刺さることで起こります。

場合は、包丁で一周ぐるりと切り目を入れてお好みで包みながら簡単に皮をむくことができます。もって、ペーパータオルなどで包みながら簡単な皮をむくことができます。途中で手のひらがかゆくなったら、せっけんでよく洗いましょう。

里芋は、ゆでるとぬめりが増します。ぬめりが増します。

りも里芋のおいしさの引き立てる役ではあります。

が、煮汁の粘度が高まり、泡立ちやすくなります。

つまり、「ほうれんそ

う、里芋のレシピ」です。

う際には、煮崩れしにくく見た目も華やかな

「六方むき」にぜひ挑戦してみてください。

※次回は、「ほうれんそ

う、里芋のレシピ」です。

おもてなし料理に使

う際には、煮崩れしにくく見た目も華やかな

「六方むき」にぜひ挑戦してみてください。

※次回は、「ほうれんそ

う、里芋のレシピ」です。

おもてなし料理に使